

ふなよせつきやまいせき  
3. 舟寄築山遺跡

ふなよせほんびょういせき  
・ 舟寄本廟遺跡

所在地：坂井市舟寄地係

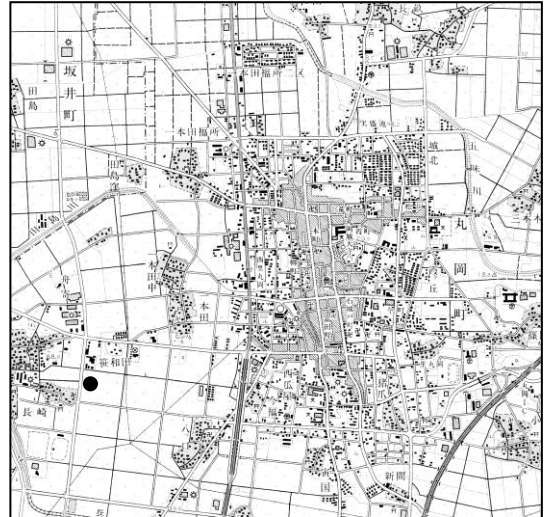
調査原因：北陸新幹線建設事業

調査期間：平成 29 年 5 月 1 日～9 月 15 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：3,010 m<sup>2</sup>

時代：古墳・中世



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 調査の対象となった場所は、県道丸岡川西線舟寄交差点の北側に広がる水田地帯です。本調査は、北陸新幹線建設事業に伴って行いました。調査の結果、湿地に囲まれた微高地上に 15 世紀後半から 16 世紀にかけての掘立柱建物や井戸、水溜枡や多数の溝・柱穴などが見つかかり、当地に中世の集落が広がっていたことが明らかになりました。

**遺構** 1～2 区(舟寄本廟遺跡)と 3 区(舟寄築山遺跡)の 3 地区に分けて調査を行いました。

1 区では、主に掘立柱建物 4 棟、井戸 3 基、水溜枡 1 基(写真2)が見つかかり、そのほか農業用水路と考えられる溝や集落内を区画するための溝などを確認しました。溝と建物の位置関係から、溝を隔てて北西に居住域が広がり、南東には水田が広がっていた可能性があります。

2 区では、掘立柱建物 4 棟、水溜枡 1 基、多数の小さい穴などが見つかかりました。北西側の建物については、調査区外へ建物が延びるため正確な規模はわからないものの、桁行5間×梁行2間以上と、他の建物と比べて大きな規模を持ちます(写真3)。このことから、集落内において中心的な役割を担う人物が居住していたと考えることができます。また、その建物の南側を東西方向に走る区画の溝を掘たところ、投げ捨てられた大量のかわらけ(素焼きの小皿)が発見されました(写真4)。

3 区については、後世の開拓によって中世以前の痕跡はほとんど失われてしまったものとみられますが、中世と推定する溝 1 条を確認しました。

**遺物** 調査中に見つかった遺物には、15 世紀後半から 16 世紀にかけてのかわらけや青磁、白磁、越前焼のほか、1 区下層の溝の中から見つかった 6 世紀後半の須恵器や土師器などがあります。

**まとめ** 調査の結果、居住域や水田域など、溝によって土地を計画的に区画した中世の集落が見つかかりました。また、古墳時代の溝が埋まってから中世の集落が形成されるまでの期間と、集落が廃れて以降、近世に水田が営まれるまでの期間は人の活動の痕跡が見られないといった、土地利用の変遷も明らかになりました。調査区より道路を挟んで南西に隣接する工場の敷地内には、文明 13 年(1481)頃、越前を支配していた朝倉氏が築いたとされる舟寄館跡があり、16 世紀前半頃には、称念寺と共に守備城として機能していたとされています。城主は朝倉氏の家臣黒坂備中守景久と伝えられており、姉川の合戦での活躍ぶりが記録に残されています。今回見つかった集落は、その舟寄館跡と成立時期を一にしており、両者の関連性がうかがわれます。(佐々木芽衣)



写真1 1～3区全景および周辺(北東から)



写真2 1区の水溜枡(西から)



写真3 2区北西側の掘立柱建物(北から)



写真4 2区の溝に捨てられたかわらけ(東から)